

■ゼミの始まりの際に語り合った「震災とわたし」「ゼミに期待すること」(一部紹介)

1年女子

- ・小6のとき山元町の被災地に行って以来、震災に向き合う機会なかった。教員目指すに当たり、災害対応に不安ある。震災にもっと向き合いたい

院1年男子

- ・祖母の家が流され、祖母犠牲。被災地出身ではあるが、直接の被災経験なく、浮いた存在。被災者と自分の距離縮めたい

4年男子

- ・震災を歴史の出来事のように、授業でこんなこともあった、と伝えるのではなく、命にかかわることとして受け止めてもらうにはどうするか。学校でどんな授業をして、どんな教材を使うのか、学びたい

3年女子

- ・学校避難を6年のときに経験。自宅流された。学校では訓練通り、校庭に集まった後に日和山に避難した。避難訓練をきちんとしていたから、できたこと。地震があったら津波が来る、高いところに避難する、という意識が身についていた
- ・亡くなった人と助かった人はどこが違ったのか。ふだんから、避難に取り組んでいたことで学校も的確に判断して動き、助かった。得た教訓を子どもたちに伝え、命を自分で守れる子どもを育てたくて教員を志した

3年男子

- ・学校避難を経験。避難経路も臨機応変に対応し、神社に避難した。学校の対応はよくできていたと思う。先生の指示がなくても、生徒はきちんと避難した。勝手に体が動いた。やはり訓練は大切。被災を実感できる形で、そういうことを伝えていけないか

1年女子

- ・青森出身。震災で揺れは大きかったが、被害はない。仙台の大学にくるとき、震災の話はできないな、と思った。体験のレベルが違う。ネガティブな話は話題にしないほうがいいだろう、と思ってきた。でも、将来教員になったら、防災のことをきちんと生徒に伝えたい。震災のことにもっと向き合う必要があると考えて、ゼミに参加した

1年男子

- ・福島県出身。津波も原発事故もテレビでしか分からない。被災地にも行ったことがない。被災地に行って、いろんな話が聞きたい

2年男子

- ・震災以来「海は怖い」と思い続けてきた。同年代の人から、被災体験を聞いたり、被災のことを話したりするのは関心が強くなる。震災のことをもっと知りたい

2年女子

- ・秋田県出身。宮教大に来てようやく自分事として震災を受け止められるようになった。わがこととして受け止めてもらえるための教育はどうしたらいいのか、被災地で多く

の人から話を聴いて、考えたい

4年女子

- ・気仙沼市出身、校庭まで津波が来て、避難した。学校現場で震災後に防災教育が実際にどう行われているか、知りたい

3年女子

- ・仙台市出身。小6のときに震災、停電、混乱の中、近所が助け合い、1つの電灯を家族全員が囲んでまとまった、といった記憶が思い出される。沿岸部は怖くて行けないまま、ゼミをきっかけに被災地に出かけ、学びたい

3年女子

- ・福島県出身。放射能のことも共有したい。いまだに福島の方は、放射能の体への影響に不安を抱えながら生きている。宮城の方もそういう状況を分かってほしい

2年男子

- ・母方の実家が気仙沼市。被災地のつらさを自分は分からないが、震災の出来事を教員になって伝えたいので、ゼミで向き合いたい

3年女子

- ・震災当時は西日本で暮らし、中学から両親の実家があるこちらに戻った。あちらでは、東北のこと、宮城のことは知られていない。津波のこともテストで答えられない同級生もいた。震災のことをもっと知らなければいけないと思う

以上